

学術論文

「引き続き」と「引き続いて」の意味と用法 — 雑誌『太陽』と『アエラ』を比較して —

東條 和子

桜美林大学留学生別科

The Meaning and Usage of "hikitsuzuki" and "hikitsuzuite":
A Comparison between The Text from Taiyo and AERA

TOJO Kazuko

Extension for International Students, J. F. Oberlin University

キーワード：複合動詞、連用形、テ形、中止形、継続、継起

1 はじめに

本稿は、複合動詞「引き続く」をめぐって、その活用形である「引き続き」「引き続いて」について、意味・用法の変遷、および現代における用法について、比較・考察しようとするものである。

複合動詞「引き続く」は、1) のようにテ形「引き続いて」より「引き続き」という連用形で用いられていることが多いことに気が付き、こうした振る舞いがいつからのことであるのかに関心を持った。

1) アエラのスタッフライター大熊一夫は、この号の「老人問題特集」の企画・メインライターの仕事を最後に、朝日新聞を離れます。引き続き、現代社会がともすれば見捨てがちな老人、医療、福祉問題の独立のジャーナリストとして活躍すると信じます⁽¹⁾。
(『アエラ』1990年8月2日)

高橋 (2003) によると、連用形よりテ形のほうが後にかかっていく力が強く、副詞への移行においてもテ形のほうが強いという。一方、「引き続く」は、連用形「引き続き」で辞書に副詞として立項されている。このような「引き続き」「引き続いて」の用法を観察していくことは、他の品詞へ拡大していく一例として意義のあることと思われる。

そこで雑誌『太陽』『アエラ』という63年間の開きがある雑誌からの資料を用いて、

「引き続き」「引き続いて」の用法の変遷を観察し、最後にBCCWJを用い、現代における用法について考察することとする⁽²⁾。

資料は、以下から収集した。

■国立国語研究所 『日本語歴史コーパス (CHJ)』より『太陽』 (1895年、1901年、1909年、1917年、1925年)

■朝日新聞社発行『アエラ』1988年5月24日発行の創刊号から2022年1月31日号 (朝日新聞社発行のオンライン記事データベース『聞蔵』による)

■国立国語研究所 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』中納言 2.4.5データバージョン 2020.02

『太陽』⁽³⁾は明治から昭和初期にかけて発刊された月刊総合雑誌、『アエラ』は昭和の終わりから現代にかけて発刊されている週刊総合雑誌である。同じジャンルで、時代的に開きがある二つの資料を用いることにより、用法の変遷を観察していく。資料における語彙素「引き続く」の総出現数は、『太陽』が230例⁽⁴⁾、『アエラ』が419例であった。

2節で複合動詞の下位類について、3節で「引き続く」の語彙的意味について、4節で「引き続き」「引き続いて」の出現形態と出現数について、5節で「引き続き」「引き続いて」の用法について、6節で先行研究にもとづく調査結果の検討について、7節で「引き続き」「引き続いて」の品詞的考察について述べ、最後にまとめを行う。

2 複合動詞の下位類—影山— (1993)

影山 (1993) は、V-V型の複合動詞を「語彙的複合動詞」(A類)と「統語的複合動詞」(B類)の2種類に分けている。「語彙的複合動詞」は語彙部門で形成される複合動詞であり、「統語的複合動詞」は統語部門で形成される複合動詞である (p.7)。A類の複合動詞は、意味の不透明化や語彙化が進んでいる。語彙部門で派生し、そのほとんどが辞書に登録されている。一方、B類の複合動詞は、意味の習慣化は見られず、V1とV2の意味関係は透明かつ合成的であると述べている。

複合動詞「～続く」は、「引き続く」の他に、「打ち続く、掻き続く、立ち続く、取り続く、乗り続く、降り続く」が『広辞苑 第七版』に立項されている。「降り続く」以外、「引き続く」も含め「打ち続く、掻き続く、立ち続く、取り続く、乗り続く」は、前項と後項の意味が不透明で習慣化している⁽⁵⁾。語彙部門で形成されるA類の複合語であると言える。

3 「引き続く」の語彙的意味

以下は、辞書における「引き続く」の語義記述である。

『日本国語大辞典 第二版』

- 【引き続く】①状態や動きなどがとぎれずそのまま進行する。物事のすぐあとにこれと似た他の物事が始まる。つづく。
②すぐとなりの位置を占める。つらなる。

『明鏡国語辞典 第三版』

- 【引き続く】①物事がとぎれないでずっと続く。
②ある物事がすんだあと、すぐ別の事が続く。

『日本国語大辞典』の「①状態や動きなどがとぎれずそのまま進行する」は、『明鏡国語辞典』の「①物事がとぎれないでずっと続く」と同義であり、『日本国語大辞典』の①の後半の「物事のすぐあとにこれと似た他の物事が始まる」は、『明鏡国語辞典』の「②ある物事がすんだあと、すぐ別の事が続く」と同義である。さらに、連用形「引き続き」の形態で、以下のように辞書に副詞として立項されている。

『日本国語大辞典 第二版』

【引き続き】副詞 間をおかずに行なうさま。すぐ続いて。続けざまに。

『明鏡国語辞典 第三版』

【引き続き】副詞 ある事がすんだあと、それに続けて。また、間をおかず続けざまに。

動詞の連用形「引き続き」と副詞「引き続き」は、アクセントが異なる⁽⁶⁾。「引き続き」が補語を伴わずに出現している場合は副詞、それ以外は「引き続く」の連用形として扱う。アクセントを参考にする。

4 「引き続き」「引き続いて」の出現形態と出現数

【表1】は、『太陽』『アエラ』において、「引き続き」、「引き続いて」、動詞「引き続く」の主述語用法（主節の述語用法）、動詞「引き続く」の連体形、の出現数と出現率（各雑誌の出現総数に対する割合）を調査したものである。【図1】は、出現率（%）を比較したグラフである。以下、統語成分として単独で出現している「引き続き」を「副詞（用法）」、単独で出現している「引き続いて」を「副詞的用法」とする。「引き続き」「引き続いて」を合わせて「副詞（的）用法」と記述する。それ以外は「引き続き」「引き続いて」とも「動詞用法」とする⁽⁷⁾。2) は副詞的用法、4) は副詞、3) 5) は動詞用法の用例である。

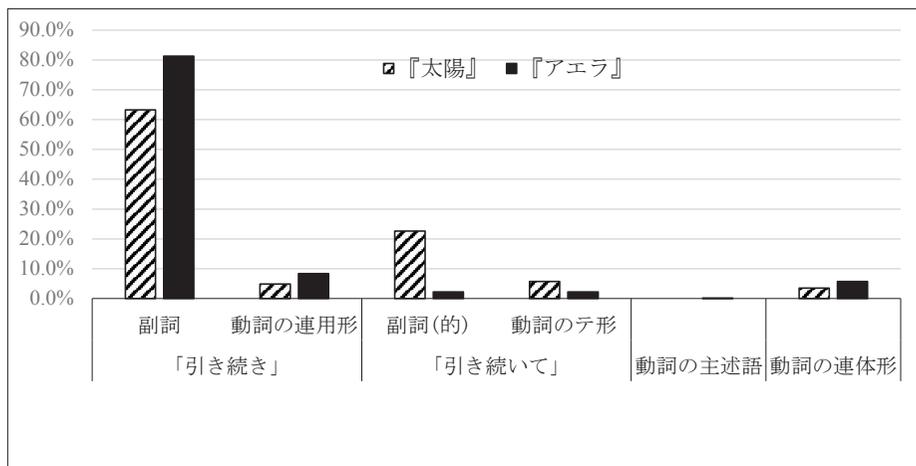
- 2) ところが夫れが運悪く産れた次の日にコロリと死んだ。それを悲しんで女房のお半も、すぐ引き續いて死んで了つた。（太陽 1925 国枝史郎）
- 3) 鐵道院理事 圖師民嘉 鐵道院計理部長を免ず 斯く各部長の更迭任免に引續き、更に十六日各課長其他に左の如き更迭を見るに至れり。（太陽1909 *（作））
- 4) すでに、今年度に調査費として10億円を計上し、交通需要や道路設置周辺の開発調

査、気象条件や地形、地質の調査など多角的に検討に入っている。来年度は13億円を要求し、引き続き調査を進める。(アエラ1988年11月1日)

- 5) 日本の円に引き続き、87年2月から、韓国のウォン、台湾のドルがどんどん切り上がった。(アエラ1989年10月3日)

【表1】『太陽』『アエラ』における出現数と出現率

		『太陽』	『アエラ』
「引き続き」	副詞	143 (63.3%)	340 (81.3%)
	動詞の連用形	12 (5.3%)	35 (8.4%)
「引き続いて」	副詞(的)	51 (22.6%)	9 (2.2%)
	動詞のテ形	12 (5.3%)	9 (2.2%)
動詞「引き続く」の主述語用法		0	1 (0.2%)
動詞「引き続く」の連体形		8 (3.5%)	24 (5.7%)
合計		226 (100%)	418 (100%)



【図1】『太陽』『アエラ』における出現率(各雑誌の出現総数に対する割合(%))

【表1】より、『太陽』では、2)のような「引き続いて」の用例と、3)のような「引き続き」の用例などが見られた。2)は副詞的用法、3)は動詞用法である。副詞(的)用法と動詞用法の両者を含む出現数で比べて、「引き続き」が「引き続いて」の2倍以上になっている。『アエラ』では、4)のような「引き続き」の用例と、5)のような「引き続いて」の用例などが見られた。4)は副詞、5)は動詞用法である。「引き続き」が占める割合がさらに増加し、「引き続いて」の20倍以上になっている。主節の述語としての出現は『アエラ』の1例のみである⁽⁸⁾。動詞「引き続く」の出現形態には、否定形、命令形、意志形などが見られないなどバリエーションが少なく、偏りが見られた。『太

『太陽』の資料は明治中期から大正の末期にかけて(1895~1925)、『アエラ』の資料は昭和の終わりから令和4年(1988~2022)にかけてのものであり、両者には63年間の開きがある。【表1】 【図1】を見ると、その間に連用修飾の「引き続き」の割合は増加し、反対に、「引き続いて」の割合は減少してきたことが分かる。

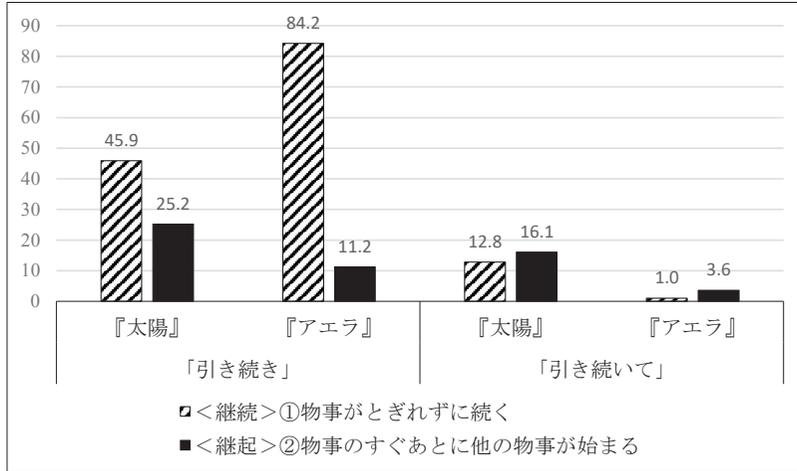
5 「引き続き」「引き続いて」の用法

3節における辞書の記述に即して、「引き続き」「引き続いて」を2つの用法に分類する。「①物事がとぎれずに続く」を表す用法を<継続>、「②他の物事がすぐあとに他の物事が始まる」を表す用法を<継起>とする。このように分類するならば、6) 7) は<継続>、8) 9) は<継起>の用例となる。<継続><継起>のどちらの意味で用いられているかを調査した結果が【表2】 【図2】である。6) 7) は副詞(的)用法、8) 9) は「引き続き」の動詞用法である。

- 6) 電気の發生に風力を利用せんとすることは、獨逸に於て尚引續き人の注目する所にして、此事に就ては同國ハムブルグ市グスタフへ、クーツ電氣會社のグスタフへ、クーツ氏が實驗を行ひつつありて、有望の成績が得らるべきが如し、(太陽 1901)
- 7) そもそも商売をやるために八時間法製品を輸入したのではないので、当面引き続いて、この製品を手当てすることはないようだ。(アエラ 1996年10月28日)
- 8) 現下の戦争は武力戦争なれども、今日の趨勢を以てすれば單に武力のみにては、戦争の全意義を貫徹することが出来ぬこの武力戦争に引續いて、直ちに商戦が行はれる。(太陽 1917 小川未明(作))
- 9) 青木さんが横路氏のパーティーに引き続き、堂本暁子参院議員の出版記念パーティーに参加した時だ。(アエラ 1995年7月3日)

【表2】『太陽』『アエラ』における「引き続き」「引き続いて」の意味による出現数

		①物事がとぎれずに続く<継続>	②他の物事がすぐ始まる<継起>	合計
『太陽』	「引き続き」	100 (45.9%)	55 (25.2%)	155 (71.1%)
	「引き続いて」	28 (12.8%)	35 (16.1%)	63 (28.9%)
	合計	128 (58.7%)	90 (41.3%)	218 (100%)
『アエラ』	「引き続き」	331 (84.2%)	44 (11.2%)	375 (95.4%)
	「引き続いて」	4 (1.0%)	14 (3.6%)	18 (4.6%)
	合計	335 (85.2%)	58 (14.8%)	393 (100%)



【図2】 『太陽』 『アエラ』における「引き続き」「引き続いて」の意味による出現割合 (%)

【表2】 【図2】より、「引き続き」は、『アエラ』も『太陽』も、<継起>より<継続>の意味での出現率が高いが、『アエラ』のほうが、両者の差が圧倒的である。一方、「引き続いて」は、『太陽』も『アエラ』も、差は小さいが<継起>での出現率のほうが高くなっている。また、『太陽』から『アエラ』という63年の開きの間に、「引き続き」の<継続>での出現率だけが増加している。以下の例文10)は、<継続>と<継起>が混在している興味深い例である。

10) 機構の成立の日の前日に厚生労働省の職員として在職する者が、附則第二条の規定により引き続いて機構の職員となり、かつ、引き続き機構の職員として在職した後引き続いて国家公務員退職手当法第二条第一項に規定する職員となった場合におけるその者の同法に基づいて支給する退職手当の算定の基礎となる（稿者略）。（BCCWJ 2002 「独立行政法人労働政策研究・研修機構法」）

一つ目の「引き続いて」は、厚生労働省の職員であることから機構の職員なる、という次の事態がすぐ起こるという意味である。次の「引き続き」は、機構の職員を続けるという意味である。二つ目の「引き続いて」は、機構の職員であることから国家公務員退職手当法第二条第一項に規定する職員になるという次の事態がすぐ起こるという意味である。

6 先行研究にもとづく調査結果の考察

「引き続き」「引き続いて」の意味機能について考察する上で、まずは、高橋(2003)と益岡・田窪(1992)の、動詞の連用形とテ形を扱う先行研究を概観する。

(1) 高橋 (2003)

高橋は、連用形を第一中止形、テ形を第二中止形とし、「中止形は一つの主語に対して述語が二つ以上ある文の先立つ述語になるか、複文の先立つ節の述語になるかのどちらかである」(p.42)と述べている。動詞の中止形が述語になる用法として、継起的な用法と並立的な用法を挙げている。継起的な用法とは、「小さなデキゴトが継起するばあいの、先行するデキゴトをしめす句節の述語となる用法である」(p.236)と述べ、11) 12) の例文を挙げている⁽⁹⁾。

11) 昼から 荷物を 宿屋に あずけて、神田の 職業紹介所に行ってみる。

12) 最初に ここに 土人の 王朝が あって、そこへ ポルトガル人が 攻めこんで きて 城を つくったのを オランダ人が きて 占領し、その あとで 英国が 手を 入れたんですね。

並立的な用法とは、「小さなデキゴトが並立されるばあいの、はじめにのべるデキゴトをしめす句節の述語になる用法である」と述べ、13) 14) の例文を挙げている。並立的な用法の場合、「コトガラをのべる順序をいれかえても、事実はかわらない」としている。

13) 彼女は まだ 泣いて いるのか、戸口は しまり、姿は みえなかった。

14) お茶を たらふく のんで、朝の あいさつを かわして、十二銭なのだ。

高橋は、第一中止形(連用形)、第二中止形(テ形)の違いに関して、「両形のもつ機能性にはことなつた傾向があり、並立的な用法では、第一中止形のちからはまだかなりつよいが、継起的な用法が拡大成分的な用法をくわえると、その逆になり、原因、場所、状況語的なもののばあいもそうだが、ようす、手段など、修飾語的な要素をもちこむばあいには、第二中止形が圧倒的なつよさをみせる。こうした現象からかんがえて、第二中止形のほうが、あとへかかっていく傾向がつよいのだといえそうである。副詞への移行において第二中止形はるかにつよいのも、こうしたことがかかわっているだろう」(p.239)と述べている。

(2) 益岡・田窪 (1992)

益岡・田窪は、複文を「全体の中心となる主節とそれに特定の関係で結びつく接続節で構成される」(p.181)と述べている。接続節を従属節と並列節に分け、従属節を補足節、副詞節、連体節に分けている。原因・理由を表す副詞節と、付帯状況・様態を表す副詞節の中で、15) 16) のようなテ形を取り挙げている。また、並列節では、順接的並列⁽¹⁰⁾の主なものとして17) のような連用形と18) のようなテ形を挙げている。連用形の並列のほうがより典型的な並列表現であり、テ形の並列のほうが時間的前後関係の差が出やすいとしている。

15) 太郎は、風邪をひいて学校を休んだ。(原因)

16) 花子は手をたたいて喜んだ。(付帯状況)

- 17) 花子が詩を作り、太郎が作曲した。
 18) 花子が詩を作って、太郎が作曲した。

(3) 先行研究と調査結果に関する考察

高橋 (2003) も益岡・田窪 (1992) も、動詞テ形は継起的な意味機能を示す傾向があると述べているが、5節の【表2】でも、「引き続いて」が<継起>という意味内容を示す傾向があるという調査結果が出ており、先行研究での記述と調査結果が一致している。

しかし、以下のような2点において、先行研究と調査結果に相違が見られる。

- A. 高橋は、並立的用法では連用形（第一中止形）がつよいと述べ、益岡・田窪も、連用形の並列のほうがテ形並列より典型的な並列表現であると述べている。「引き続いて」に比べ「引き続き」は量的に用例数が多い。しかし、『太陽』『アエラ』における「引き続き」全用例530例中、並列⁽¹¹⁾の意味機能で「引き続き」が出現している用例は見られなかった⁽¹²⁾。
- B. 高橋は、修飾語的な要素を持ち込む場合には、テ形のほうが圧倒的な強さを見せ、副詞への移行にも強いと述べている。動詞の中止形から副詞へ転成した例として19)の「すぐれて」を挙げている。

19) 宗教的歓喜と いう ものが いかに 富や 名誉など、地上の 楽よりも すぐれて 尊いかを、師は 高潮して おはなしなされました。

しかし、「引き続く」の場合、連用形「引き続き」の形態で、国語辞書に副詞として掲載されており、高橋の指摘と異なっている。

AとBのように、「引き続き」「引き続いて」の調査結果は、先行研究に当てはまらない点が見られる。その要因は、「引き続く」それ自体が連続という意味を有しているという語彙的特殊性にあるのではないだろうか。

7 「引き続き」「引き続いて」の品詞的考察

(1) 「引き続き」「引き続いて」の副詞(的)用法と動詞用法

3節において、連用形「引き続き」が副詞として辞書に掲載されている点に触れた。高橋は、副詞への移行において第二中止形（テ形）がはるかにつよいと述べている。本節では、「引き続き」「引き続いて」が、副詞(的)用法として単独で出現している用例と、20) 21) のように動詞として補語⁽¹³⁾を伴っている用例を比較、検討した⁽¹⁴⁾。

20) 陳情に引き続いて視察、2往復分交通費を受けとる。(アエラ1992年11月24日)

21) 国民に心を寄せることはもとより、平成の時代に引き続き、世界の平和を願う気持ちを強調されたのが印象的でした」と話した。(アエラ2019年11月4日)

4節において、「引き続き」は単独で出現しているものを副詞、「引き続いて」は単独

で出現しているものを副詞的用法とし、それ以外は「引き続き」「引き続いて」とも動詞用法とすると述べた。【表1】に示したように、『太陽』と『アエラ』を比較すると、副詞(的)用法の場合、「引き続き」は『アエラ』で増加しているが、「引き続いて」は『太陽』の方が多い。また、動詞の連用形用法も「引き続き」が『アエラ』で増加し、「引き続いて」は減少している。『太陽』『アエラ』の63年間の開きの間に動詞の連用形から副詞へ移行したのではなく、副詞(的)用法は、以前から多用されてきたと考えられる。

(2) 「引き続き」「引き続いて」の接続詞への移行の可能性

テ形「引き続いて」は、継起的な意味内容が強いことは、高橋(2003)、益岡・田窪(1992)の記述と一致している。『太陽』『アエラ』からの資料では「引き続いて」の用例件数が不十分なので、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)中納言 2.4.5 データバージョン 2020.02』(国立国語研究所)から用例を追加収集した⁽¹⁵⁾。22)は、『アエラ』では見られなかった、「引き続いて」が<継起>の意味内容で、文頭に出現している例である。

22) 元首たちは、世界を第二次世界大戦に追い込み、この世界大戦で主導権をにぎり、原爆を落とすことに同意し、ポツダム宣言を日本に突きつけた米、英、ソ、の首脳たちである。引き続いて、戦前・戦後を通じて世界を現在の姿に引きずっていった冷戦両陣営の首脳たちが取り上げられ、その医学的な側面が分析される。(『現代史を支配する病人たち』1992)

また、4節では、副詞(的)用法としてまとめたが、BCCWJにおいて文頭に出現している「引き続き」「引き続いて」には、23) 24) のような用例も見られた。

23) 午後は宮殿で祝宴が催され、皇族方や小泉首相、衆参両院議長、最高裁長官ら約五百人が出席。引き続き、各国の駐日大使夫妻を招いた茶会が開かれた。(読売新聞 2001)

24) これに続いて白血球やマクロファージが障害部位に遊走し炎症が起こりますが、この過程でさらにさまざまな炎症性メディエーターや増殖因子などの活性因子が局所に放出されます。引き続いて線維芽細胞など間葉系の細胞の遊走・増殖が引き起こされます。線維芽細胞は増殖するとともにコラーゲンやフィブロネクチンと呼ばれる細胞外基質(マトリックス)タンパクを産生します。(『医学と夢の再生医療』2002)

23) の「引き続き」、24) の「引き続いて」は共に、時間的な順列関係として前文と当該文を接続している。文頭におけるこのような「引き続き」「引き続いて」は、品詞としては接続詞に移行していると言ってもいいのではないか。文頭に出現している「引き続き」「引き続いて」において、時間的な順列関係で前文と当該文を接続している23) 24) のような例を接続詞的用法、主に動詞句を修飾している25) のような例を副詞

(的)用法とする。副詞(的)用法と接続詞的用法とはかなり連続的である。

25) きょうはどうも本当にありがとうございました。引き続き、お互いにいろいろ努力しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願います。(『緑の地球を子どもたちへ』2003)

【表3】は、『太陽』『アエラ』における「引き続き」「引き続いて」の文頭での出現数を表したものである。『太陽』において、全副詞(的)用法194例中、文頭に出現している副詞(的)用法は12例、接続詞的用法は5例であった。『アエラ』において、全副詞(的)用法349例中、文頭に出現して副詞(的)用法は67例、接続詞的用法は9例であった。「引き続いて」に比べて「引き続き」の出現数が圧倒的に多く、<継続>の意味での副詞用法が中心となっている。

【表4】はBCCWJにおける「引き続き」「引き続いて」の文頭での出現数を表したものである。『太陽』『アエラ』同様、BCCWJでも、「引き続いて」に比べて「引き続き」の出現数が圧倒的に多い。文頭においても、「引き続き」は<継続>、「引き続いて」は<継起>での出現が多いという傾向は変わらない。「引き続き」は<継続>での副詞用法が圧倒的に多い。また、「引き続き」「引き続いて」とも、<継起>においては、副詞(的)用法と接続詞的用法の出現数に、<継続>ほど大きな差はない。

【表3】『太陽』『アエラ』における「引き続き」「引き続いて」の文頭での出現数

			「引き続き」	「引き続いて」
『太陽』	<継続>	副詞(的)用法	7	0
		接続詞的用法	3	0
	<継起>	副詞(的)用法	2	3
		接続詞用法	1	1
『アエラ』	<継続>	副詞(的)用法	62	0
		接続詞用法	9	0
	<継起>	副詞(的)用法	5	0
		接続詞用法	0	0

【表4】BCCWJにおける「引き続き」「引き続いて」の文頭での出現数

		「引き続き」	「引き続いて」
<継続>	副詞(的)用法	137	2
	接続詞的用法	0	0
<継起>	副詞(的)用法	32	6
	接続詞的用法	18	8
合計		187	16

また、BCCWJにおいて、26) のように談話標識的な「引き続いて」が見られた。文頭に出現している「引き続いて」の接続詞的用法8例のうち2例が、談話標識的用法であった。「引き続き」の接続詞的用法18例では談話標識的用法は見られなかった。

- 26) (稿者略) 御質問の趣旨に基本的に私は全く同調いたします。○水田委員 ありがとうございます。引き続いて、松本さんに再々立ってもらって申しわけありませんが、一つは、先ほど金利の問題で、なかなか公定歩合下げても中小企業は下げてもらえないというお話があったんですが、(稿者略) 御見解をお聞かせいただきたいと思います。(国会会議録1992)

(3) 「引き続きまして」の考察

『太陽』『アエラ』には出現がなかったが、BCCWJにおいて「引き続きまして」の出現が37例見られた⁽¹⁶⁾。37例中、15例が副詞的用法(ないし接続詞的用法)、22例が動詞用法であった。また、<継続>の意味での使用が17例、<継起>の意味での使用が20例であった。27)は副詞で<継続>用法、28)は動詞で<継起>用法である。

- 27) ○大村分科員ありがとうございます。ぜひそういった意味でこの取り扱いをしっかりとやっていただきまして、やはり地域での中心である商店街の活性化、振興といったことについて、引き続きまして御尽力をお願いしたいと思っております。(国会会議録 1997)

- 28) かけかえ事業は六十年から事業に着手をいたしまして、現在のところ六十一年度、来年度で完了の予定でございます。この橋の完成に引き続きまして、いろいろな交通状況を勘案しながら引き続き整備を進めてまいりたい、こういうふうに考えている次第でございます。(国会会議録 1986)

また、29) のように文頭に出現している例は5例見られた。29) の「引き続きまして」は、前の話者の話が終わり、司会者が次の話者を指名し、話の内容が変わっている。文頭に出現している5例全てが、(26) の「引き続いて」と同様に、このような談話標識的な用法となっている。「引き続きまして」という丁寧形は、国会会議録のような話し言葉的な場面に使われる傾向があると考えられる⁽¹⁷⁾。

- 29) (稿者略) このシステムをどの程度よそに広げるか、それができるかどうかという大きなところがありますので、できるだけこのシステムをスムーズに動かせるようにしたいと考えております。以上です。司会 ありがとうございます。引き続きまして、リサイクルロンドの事務局の方から、リサイクルロンドの仕組みについてご説明をいただきたいと思います。清水 私が、このリサイクルロンドぎふの事業と申しますか、まだ運動の域を脱していないような状態なんですけれども、かかわった動機と申しますのは、この関市に「あおぞら会」という作業所を、ことし四月にたくさんの皆さんの努力で立ち上げました。(『緑の地球を子どもたちへ』2003)

8 まとめ

『太陽』に比べ、『アエラ』では、＜継続＞の意味で「引き続き」の副詞用法がかなり増加していることが判明した。『アエラ』とBCCWJ⁽¹⁸⁾は年代的に半分以上重なっている。BCCWJにおいて、「引き続いて」は「引き続き」の10分の1以下の出現であるが、＜継起＞の意味で、文と文を繋ぐ接続詞的用法を表す傾向があることが判明した。さらに、「引き続いて」には談話標識的な用法も見られた。【表5】は、「引き続き」「引き続いて」の意味と機能をまとめたものである。

【表5】 「引き続き」「引き続いて」の意味と機能

	主たる語彙の意味	主たる統語機能	談話機能
「引き続き」	＜継続＞	副詞的機能	
「引き続いて」	＜継起＞	接続詞的機能	談話標識的

9 おわりに

「引き続き」の多用に注目し、調査を始めたのが本稿を書いたきっかけである。この「引き続き」の多用の要因は、動詞「引続く」それ自体が連続という意味を有しているという語彙の意味の特殊性にあり、その特殊性が、先行研究に当てはまらない要因でもあると考えられる。動詞としての用法、副詞としての用法、接続詞としての用法、談話標識としての用法など、「引き続き」「引き続いて」の機能は多様である。動詞「引続く」から接続詞へと用法を拡張させたことは文法化の一例とも言える。

また、今回の調査過程で、「引続く」と近似の意味の「続く」の振る舞いに注目した。「続いて」の文頭出現はあるが、「続き」はない。今後「続く」も調査していきたいと思う。

謝辞

桜美林大学名誉教授の新屋映子先生に、論文の下書きを何度も丁寧に見ていただき、その都度頂戴した貴重なご助言をもとに書き直しを行い、本稿を完成することができました。心より深謝申し上げます。また、新屋先生を中心とする研究会では、定期的に発表する機会をいただき、貴重なご意見を賜りました。新屋先生、研究会の先生方に心より深謝申し上げます。

注

- (1) 用例および引用文中の下線は筆者による。
- (2) 現代における「引き続いて」の用例数が不十分だったので、7 (2) 節では、BCCWJからの資料を使用した。
- (3) 『太陽』では、旧仮名・旧字体が用いられているが、図表の中では適宜新仮名・新字体を用

いた。

- (4) 5種類の書字形「ひきつづく」「引きつづく」「引き續く」「引續く」「引續」で出現。
- (5) 『広辞苑 第七版』のよると、【打ち続く】は、「打つ」ことが「続く」という意味ではなく、「〔自五〕「続く」を強めていう語。次々と続く。」と記載されている。3節で記述しているが、【引き続く】も同様に、「引く」ことが「続く」という意味ではない。
- (6) アクセントは、〔(動詞連用形)ヒキツヅゝキ〕〔(副詞)ヒキツヅゞキ〕
- (7) 『太陽』においては、以下のような、他動詞としての用例が1例、「の」が後接している例が2例、時間的な連続ではなく空間的なつながりを表す、名詞用法の例が1例、また、『アエラ』においては、「の」が後接している例が1例見られたが、【表1】の出現数からは除外している。

- ・蓋し事務の局に當る者は、一般の財政と經濟とは之を顧みず、唯自己所管の事務を引續くるを以て、自己の功名の如くに考ふるを常情と爲す、(太陽1901*)
- ・女が直ぐ行つてしまはうとすると、人夫どもは先刻からの引續きの冗談のやうに、口々に呼び留めた。(太陽1917村山勇三)
- ・ジョージカンニングは之れを斷行するに於て有力なる關係者であつたのであるが、殊に其れに引續いての露西亞との接衝に於ては、痛快に露佛の陰謀の裏をかきたることを指摘し堂々と論じて居る。(太陽1925林毅陸)
- ・過去への贅辞と現状のギャップをどう埋めていくか。それを考えていくことが引き続きの課題です……」(アエラ2009年2月9日)
- ・樂園の繪卷物を見るやうに、美しい果樹園や目のさめるやうな濃緑の牧場の引續きを右手に見ながら湖畔を半周すると、そこはレーマン湖をローン河に括つて居る一大水郷ジュネーヴである。(太陽 1901 林久男 (作))

- (8) 政党の取支がここ数年間で横ばいだったにもかかわらず、その他の政治団体が低迷し背景には、法人の政党以外への寄付禁止を定めた99年の政治資金規正法の改正があるとみられ、「政党中心の傾向が05年も引き続いた」と県選管は分析する。(アエラ2006年11月1日)ただし、これは引用節内の述語である。
- (9) 例文における分かち書きは高橋に従う。
- (10) 「逆接的並列を表す代表的形式は、接続助詞の「が」である。」(p.206)と述べ、連用形とテ形の例は挙げられていない。
- (11) 本稿では、高橋の「並立的用法」も「並列」とする。
- (12) 「引き続いて」についても、『太陽』『アエラ』に出現する「引き続いて」の全用例81例中、並列の意味機能での出現は見られなかった。
- (13) 「～に引き続く」で【引き続く】の必須補語として「～ニ」が圧倒的に多く、『太陽』では「引き続き」で12例中7例、「引き続いて」では12例中10例「～ニ」である。『アエラ』では「引き続き」で35例中31例、「引き続いて」では9例中7例「～ニ」であった。「引き続き」「引き続いて」の補語を「～ニ」以外で伴うのは、以下の例のような「～カラ」「～ヨリ」だけであった。
- ・東独時代から引き続いて、そのままここで働いている人も10人いる。(アエラ1992年7月7日)
 - ・國民黨も同日評議員會より引續き大會を開き最初の濱田幹事の不信任提案に關する各黨との交渉顛末報告を爲したる後左記宣言及決議を可決し、犬養總務亦之に對し一場の演説を

爲せり。(太陽1917*)

- (14) 『太陽』では、文語体において動作主体をあらわす主語が「～ガ(ハ)」を伴わず出現する場合も含めた。
- (15) 「引き続く」の全用例4,179例中、副詞用法と動詞用法の「引き続き」が3,790例、副詞的用法と動詞用法の「引き続いて」が271例出現していた。
- (16) 36例が国会会議録からであった。
- (17) 本稿では、国会会議録やyahoo ブログなど、話し言葉と書き言葉の中間的なものからも資料を収集した。話し言葉と書き言葉を分けていないが、今後の課題としたいと思う。
- (18) 収録対象の刊行年代は、最大30年間(1976～2005)。メインとなる書籍の場合は、1986から2005年。

参考文献

- 影山太郎(1995)『文法と語形成』、ひつじ書房
- 言語学研究会・構文論グループ(1989)『言語学研究会の論文集・その2 ことばの科学』「なかどめ—動詞の第二なかどめのばあい—」、むぎ書房
- 言語学研究会・構文論グループ(1989)『言語学研究会の論文集・その3 ことばの科学』「なかどめ—動詞の第一なかどめのばあい—」、むぎ書房
- 甲田直美(2001)『談話・テキストの展開のメカニズム—接続表現と談話標識の認知的考察』、風間書房
- 新川忠(1990)『言語学研究会の論文集・その4 ことばの科学』「動詞の第一なかどめと第二なかどめとの共存のばあい—」、むぎ書房
- 泉子・K・メイナード(1997)『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現性』、くろしお出版
- 泉子・K・メイナード(2004)『談話言語学：日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』、くろしお出版
- 高橋太郎(2003)『動詞九章』、ひつじ書房
- 寺村秀夫(1997)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』、くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法—改訂版—』、くろしお出版
- 南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』、大修館書店
- M.A.K.ハリディ・ルカイヤ ハサン(安藤貞雄・多田保行・永田龍男・中川憲・高口圭轉訳)(1997)『テキストはどのように構成されるか—言語の結束性—』言語学翻訳叢書【第8巻】、ひつじ書房

辞書・辞典類

- 北原保雄編『明鏡国語辞典 第三版』大修館書店(2020)
- 新村出編『広辞苑 第七版』岩波書店(2008)
- 日本国語大辞典第二版編集委員会(編)『日本国語大辞典〔第二版〕』小学館(2000)
- 日本語教育学会編『新版日本語教育辞典』大修館書店(2005)
- 山田忠雄、倉持保男、上野善道、山田明雄、井島正博、笹原宏之編『新明解国語辞典 第八版』三省堂(2020)

データ類

- 『アエラ』朝日新聞社発行1988年5月24日発行の創刊号～2022年1月31日号（朝日新聞社発行のオンライン記事データベース『聞蔵』による）
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』中納言 2.4.5データバージョン 2020.02（国立国語研究所）
- 『日本語歴史コーパス（CHJ）』中納言（国立国語研究所）より『太陽』（1895年、1901年、1909年、1917年、1925年）